



オオヨシキリ

# あじえんだ 113

第4号



忍野八海からの富士（忍野村）

## 《も く じ》

〔特集〕基本理念合意される	
・ 清くゆたかに川は流れる	2
・ アジェンダ21桂川・相模川基本理念	3
・ キーワード随想「基本理念と行動計画」	4～7
○ 流域ウォッチング③ 流域の野鳥たち	8・9
○ 上下流交流事業	10
○ シリーズ 生きものたちの語る相模川 1	11
○ 市民・事業者・行政のページ	12～14
○ コイのビテロジェニン調査終わる	15

## 桂川・相模川流域協議会

# 清くゆたかに川は流れる

流域は「雨水が川にあつまる大地の広がり」。国境や行政区域のように人の利害や都合で変わることはありません。流域には循環型社会をも可能にする多様性があります。桂川・相模川の源流部には富士山があり、森が広がります。113キロメートルを流れた水は海——相模湾にたどりつきます。

山梨、神奈川の両県による桂川・相模川流域の環境を保全する行動を促す3年間の事業を引き継ぎ、法的拘束力を持たない社会計画、アジェンダは、各主体の合意により着実につくられつつあります。

ここに紹介する基本理念は、アジェンダの手法を用い時間をかけて、ようやく合意に至ったものです。自然が本来持っている機能をそこなわず、桂川・相模川の恩恵を将来世代まで引き継ぐために。

## 「基本理念」を活かす

環境自治体アドバイザー 田中 充

一昨年の流域協議会の発足から種々議論があった基本理念がようやくまとまった。基本理念の具体的な内容は次ページを読んでいただくこととして、ここではその意義について若干述べておきたい。

そもそも、私たち（市民や行政、事業者）は、職業や生活環境等が異なるが故に、川に対する期待も様々である。しかし、桂川・相模川の豊かな自然を守り、これを将来世代に引き継いでいこうという「想い」では共通している。

こうした想いを形にし、行動項目を体系化するものとして、私たちはアジェンダの最上位の概念（理念）を位置づけられるだろう。

実際、私たちは普段生活し、行動する際に、無意識であっても将来どのような姿になりたいかということに常に念じている。つまり、まず行動があるのではなく、理念が先にある。その理念の実現に向けて行動があるのである。

アジェンダがめざす理想は、流域における人と自然、人と人が、抑制ではない、公正な関係のもとで、持続的に共存していくことだ。基本理念とは、その基本となる私たちの価値観とスタンスを表現したもののだろう。

今回の基本理念は、アジェンダという社会的合意を推進させる私たち自身の「志(こころざし)」でもある。アジェンダの成否は、また私たち自身が、この志をどれだけ高く保つことができるかにあると考えている。

## 基本理念の合意までの経過

代表幹事 桑垣 美和子

1999年度、桂川・相模川流域の持続可能な発展のため、基本理念ができあがりました。1998年1月、当協議会の発足当時、三者により検討されていた「清くゆたかに川は流れる アジェンダ21桂川・相模川」の中に「基本理念」を盛り込む努力がなされました。しかし議論の時間が十分になく、「はじめに」の形として掲載されました。

その後、基本理念はアジェンダ21市民会議および市民部会メンバーにより1年以上をかけて再検討され、原案が作成されました。「はじめに」の作成過程では市民の間にはねじれが生じ、ぎこちない関係が続いたこともありましたが、その後の話し合いの継続と新メンバーの参加により、信頼関係が生まれています。市民はこれまでのアジェンダづくりを「清くゆたかに川は流れる—桂川・相模川アジェンダ21市民案—」にまとめ出版しました。

さまざまな思い出を残し、基本理念は総会に提案され、市民部会、行政部会、事業者部会の意見を入れてようやく完成しました。桂川・相模川の恩恵を将来世代に引き継ぐことを共通の目標に、さまざまな主体・グループが行動するときの基本となる理念として、一人ひとりが活かしていきたいと思えます。

私たちは法や条例では解決が困難な流域環境の保全や川の浄化を、行動指針・計画（アジェンダ）をつくり、実行することで実現できます。豊かな水量、きれいな水、環境汚染のない流域が皆のねがいと思えます。



## アジェンダ21桂川・相模川基本理念

私たちは、桂川・相模川の将来像を「清くゆたかに川は流れる」とイメージします。

河川の豊かな水は、多くの生物を育み、生物はまた、水を自然浄化します。清流は、ただ清らかに澄んでいるだけではなく、流れることによって、豊かで多様な生物の生存を可能にしています。

桂川・相模川は、これまで、清くゆたかな流れによって、森と海を結び、空と地表と地下をつなぎ、多様な生物と人間を共存させ、地域の風土と文化、経済の中心となってきました。

しかし、20世紀半ば以降、首都圏の周縁をなす地域とその周辺の人口の増加、社会経済の急激な発展を背景に、水需要が増大し、川の水が大量に使用されるとともに、汚濁物質が流入するなど、桂川・相模川の水量の減少と水質の悪化は大きな問題になっています。また、治水事業・利水事業は、私たちの安全で快適な生活の確保に役割を果たしてきましたが、反面では、生物の生息・生育環境を含めた自然環境に大きな影響を与えています。

私たちは、古くから桂川・相模川の恩恵を一身に受けてきました。そして、今日、桂川・相模川は、流域の住民はもとより、その恵みを受けているすべての生物と人々、あらゆる主体にとっての共有財産となっています。

こうした認識のもとに、私たちは、桂川・相模川を悠久のものとして将来の世代に引き継ぐため、市民、事業者、行政の合意に基づいて、次のことを基本理念として、「アジェンダ21桂川・相模川」を策定し、実行していきます。

1) 私たちは、清くゆたかに流れる桂川・相模川の恵みの中で、健康で安全かつ文化的な生活を営む権利を有するとともに、この川

の恵みを将来わたって子孫とすべての生物が公正に受けられるよう継承する責務がある。

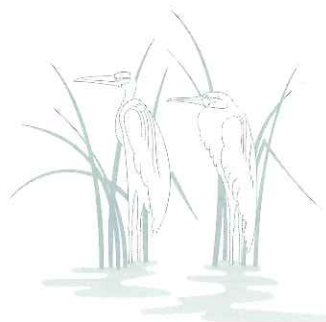
2) 私たちは、流域に係わるすべての人々の社会経済活動や生活様式が桂川・相模川に大きな負荷を与えていることを認識し、これらを環境の視点から見直し、豊かで多様な生命を育むことができる、環境への負荷が少ない持続可能な発展を基調とした環境保全型社会を形成するよう行動する。

3) 私たちは、桂川・相模川に係わるすべての事業活動において、地域の自然的社会的条件に応じて、その計画段階から、良好で健全な自然環境の保全・回復を重視し、生活環境及び社会環境についても、総合的に配慮する。

4) 私たちは、上流と下流、市民と事業者と行政など、様々な立場の違いを超えて互いに交流を深めながら協働するとともに、自らの責務を自覚し、各々の役割分担と公平な負担のもとに、自主的かつ積極的に行動する。

5) 私たちの行動の前提として、情報の共有化が必要であり、桂川・相模川に関する市民、事業者、行政の情報は、公開を原則とする。

私たちは、桂川・相模川に係わる政策や事業の立案と推進にあたって、桂川・相模川に関心と利害を持つすべての主体の参加を得て行われるよう努力する。



## 《キーワード随想》

# 基本理念と行動計画

市民・事業者・行政と立場はそれぞれ異なっても、「川はいつも清くゆたかに流れてほしい」思いはひとつです。

本号では「市民参画」「動植物」等のキーワードを使って、5名の方々に「基本理念と行動計画」について感想などを綴っていただきました。

※掲載は順不同です。

## 「流域協議会」への 参加のありがた

赤羽 興三郎

このたび、「アジェンダ21桂川・相模川」の核心、「基本理念」が決まりました。昨年の総会から一年間の期間があったのに合意できず、総会が指名した協議機関で継続協議し決定となりました。昨年9月から会員に加わった私は、「同じ目的で集まったのに、なぜ理念の合意に時間がかかるのか」という疑問を持ちました。

議事の進め方も問題があるが、協議会への参加のしかたに、問題があるように思いました。

その参加のありがたの違いを、「関係」「立場」「役割」の三つの言葉を鍵として、考えてみました。

### 【市民の参加のしかた、ありがた】

- ・市民は個人として協議会に参加している。
- ・環境・自然などに関心を持つ人が、自然との「関係」を改めるアジェンダ思想に共鳴し、豊かな川に戻すため循環型社会への道を求めて実現したい「立場」で、**流域協議会**に参加し、行動計画の立案と実践の「役割」を担っている。



### 【行政・事業者の参加のしかた、ありがた】

- ・組織は代理（代表）を派遣し参加している。
- ・協議に参加する人は、組織の代表という「関係」にあるのではないか。
- ・役割としての参加姿勢では、新たな発想も合意も、ともに難しくなる。

### 【立場を超えた合意のために】

- ・地球サミットが産んだ「持続的に発展可能な社会」という理念は、経済優先社会からの転換を意味している。「立場を超える」とは「役割を創る」ということに通じる。
- ・それは、部局の代表という役割を超えて、持続的に発展可能な社会をめざし、部局に働きかける役割を新たに背負うことを自覚することではないか。



・市民も同じで自らの生き方と生活を変えて周囲に働きかけて行く立場にある。その自覚を共有することが、立場を超えた合意を可能にする。

流域協議会は、運動を魅力のあるロマンに満ちた活動にしていく合意の場でもあります。

参加する人が状況に学びながら、互いの交流で自分の発想を変えていく。協議会をそのような既存のものを「超えた」集まりにしたいと思っています。

(市民・二宮町在住)

## 「桂川・夢は枯れ野を…」

山本豊美

私は聞き違いや勘違いをしやすい人間で、特に日本語は同語音が多いせいか一回聞いただけ、ひらがなで読んだだけでは時としてまるで違って納得していることがあります。

小学生の頃、国語の授業で「五月雨をあつめて早し最上川」という俳句を習いましたが、すでにどこかで耳にっていて、その時まで持っていたイメージは～子供達がドンド焼きに、集めてきたサミダレ（御幣のようなもの）を最上川の河原に積みあげて、燃やしつつ何やら楽しく囃し声を上げているのだ～ というものでした。漢字まじりの句を目にして初めて《何だ、ただ川の流れることを描いた句なのか…》と拍子抜けしたのを覚えています。

私の迂闊な性分のことはさておき「最上川」を去年のちょうど5月の時分に見る機会があったおりのこと。前日まで長雨が降ったせいで、目の前を流れる川の水量の多さには圧倒されました。《松尾芭蕉の見た300年前の最上川もこのようだったのか…》と、遥か昔からの変わらぬ自然の営みを思いしばし立ち尽くしていました。

そのうちに想いは我が生息域の山梨県東部を

流れる桂川に馳せ、《この豊かな川に比べ、桂川の何と痩せ乾涸びていることよ…》とため息が出ました。無論私が桂川の上から下まで全て知っているわけでもない。が、最上川を目の前にして桂川の魅力の優位性をあげるのは無理があると思いました。

流域協議会で桂川・相模川の水量についていろいろな角度から話し合われています。興味深いことがあります。アジェンダ策定の時から参加してきた私は《この集まりは自分の忍耐力の有無の度合を測るパロメータみたいなものだ》と思った時もあります。が、それを上回って《“理想を燃やして生きる”とはこういうこと、と思わせる生き方をしている人々に出会える場だ》という感慨を持つことが多いです。

「市民参画」と一口にいつても現実にうつすことはさながら「奥の細道」に踏み込んでいく当時の旅人のような「苦難への覚悟」が必要だと見ました。＜旅に病んで夢は枯れ野を駆けめぐる＞の句に因み、一句。＜理念持ち、たまに河原でバーベキュー＞…気長にいきましょう…。あんまり集まりに出ていけない私がこんなこと言っているのかネ、しかし…。

(市民・大月市在住)





# 桂川・相模川の 水質と水道事業

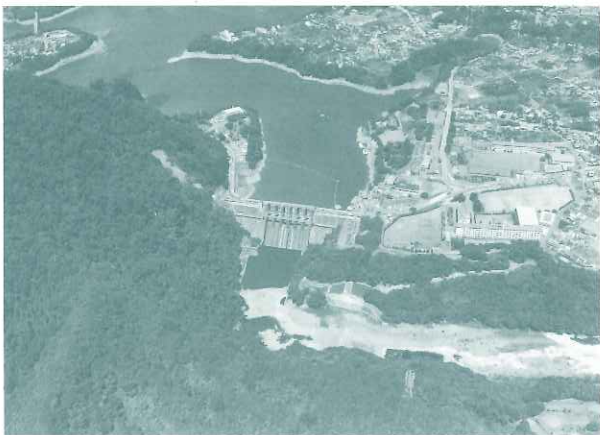
西 正 勝

神奈川県内の水道水の約6割をまかなう桂川・相模川は、まさに神奈川県の母なる川であり、川崎市も神奈川県内の他の水道事業者とともに、相模川の水を水道用水として、また、工業水道として利用し、桂川・相模川の自然の恩恵を受けております。

その水源であります相模湖、津久井湖は、川や湖周辺の社会活動の活性化により、湖水の富栄養化が進み、アオコ等の植物性プランクトンの大量発生による浄水場ろ過池の目詰まりや水道水にカビ臭が付いたりする浄水障害を起こすようになってきました。

そこで相模川、津久井湖にエアレーション装置を設置するなどの対策を神奈川県が中心となって行ってきた効果もあって、ここ数年、以前のようなカビ臭の発生もなく、両湖の水質は徐々に改善されてきているようにも思われます。浄水場においても安全でおいしい水を安定して利用者の皆様に供給できるよう、原水の水質悪化への対策として、活性炭注入設備を設置するなどの努力をしておりますが、これらの設備を使用することが、できるだけ生じないようにしたいものです。

「アジェンダ21桂川・相模川」の主旨に基



づいた市民、行政、事業者の合意による流域協議会の活動によりまして、桂川・相模川の水質がより良くなりますことを期待しております。

(川崎市水道局長沢浄水場)

## とにかく始まった

山 本 幹 雄

桂川・相模川流域における山梨県と神奈川県との流域環境保全への取り組みは、平成4年に設置した「山梨県・神奈川県水質保全連絡会議」に始まりました。両県の環境部局長が意見交換する場所です。この両県の連絡会議で「流域全体で一斉に清掃するとか、そんなことができればいいね。」という発言が平成6年に交わされました。この発言を受けて両県担当者が知恵を絞ることになります。行政の取り組みはここでスタートしました。その指針として担当者が持っていたのは平成4年にブラジルで開かれた地球サミットで合意されたアジェンダ21の中の第28章でした。ここには、地方公共団体は市民、地域団体及び民間企業と対話を行い、「ローカル・アジェンダ21」を採択すべきであると記されていました。事業の枠組みは両県の担当者の議論を通して組み立てられていくことになるが、その特徴は、「枠組みは作るが中味までは決定しないこと」であったと思っています。対話と合意を通して中味を創っていくプロセス、これがアジェンダづくりの基本であり、この事業で大切にされたことであります。両県の事業期間の終盤に、とりあえずのアジェンダを採択するときには基本理念は合意が得られず先送りにされました。行政計画の視点からは異例のことでありましたが、合意を重視する手法からは当然の結果だったと思っています。

アジェンダづくりを通して、流域の市民・事業者・行政は合意までのプロセスを学びまし



た。これが流域協議会の財産です。市民・事業者の参加を得てアジェンダを創った事は、両県の新しい貴重な経験であります。

流域全体を対象とし、流域のあらゆる関係者が、流域環境の改善・保全に取り組むことを目標とした事業がとにかく始まりました。前例のない事業であります。現在までに多様な視点から、幅広く取り組んでいくための基礎固めができつつあると考えています。

(山梨県企画県民局統計調査課)

## 進めようアジェンダ

塩 沢 俊 克

西暦2000年代の幕開けという大きな節目の年を迎えて、21世紀が「夢」や「希望」に満ちた世紀となるように、本県も決意を新たにしてい、様々な課題に取り組んでまいります。

さて、20世紀は「大量生産、大量消費、大量廃棄」に特徴づけられた社会であり、地球が長い年月をかけて作りだした資源とエネルギーを消費する一方で、地球に自浄作用を超える環境負荷をもたらし、私たちの生存の基盤まで危うくしてしまいました。21世紀は、この20世紀型文明社会から抜け出して、**自然**と共存した「最適生産、最適消費、最少廃棄型」の経済

社会システムに転換し、持続的発展が可能になる社会となることが求められています。

桂川・相模川流域においては、市民、事業者、行政が連携して持続的発展が可能な社会を構築するための取り組みを進めていますが、桂川・相模川が「清くゆたかに流れる」ためには、このような取り組みの輪が流域の多くの皆さんの行動へと広がっていくことが必要です。

**地域協議会**のように、地域における取り組みを着実に進めることも重要になってきますし、さらに、平成8年の両県のアンケート結果、『流域の7割の人は環境保全について関心があるが、具体的な行動を行っている人は3割』に示されるように、これらの人々の環境保全行動への参加も考えていかねばなりません。

昨年、行動計画である「**アジェンダ21**桂川・相模川」に、流域環境保全の基本的なよりどころとなる「基本理念」が採択されるとともに、洗剤対策、廃棄物対策などの行動指針も出来上がりましたが、これからは、「目標を設定し、その目標に対して行動し、評価する。そして、行動を見直し、また、評価する」という、アジェンダのサイクルをしっかりと進めていくことによって、桂川・相模川の流域環境保全を確実なものとするということが求められると思います。

(神奈川県環境農政部大気水質課)

〈上下流交流事業〉

### 植林体験しませんか！

～4月22日(土)大月市で実施予定～

桂川・相模川の水環境を守るには、その流域にある森や山を守ることも重要です。このため、山梨・神奈川にまたがる流域に暮らす皆さんとともに、木を植え、自然にふれ、交流の輪を広げることを目的として、植林作業の体験イベントを実施します。今回も、2001年に山梨県で開催される第52回全国植樹祭にむけて実施する21万本植樹運動と連携

し、コナラ約3300本を植える予定です。コナラは雑木林を代表する落葉広葉樹で、炭の原料等として使われるとともに、野生動物のえさとなるドングリがなる木です。

また、ヒラタケの植菌体験もあわせて行います。ヒラタケはシメジの名前で市販されている傘が黒い小さなきのこですが、原木で栽培すると5cm以上の大きなものができる、味も天然のものに比べて見劣りしません。上手に育てて秋には美味しいきのこを食べましょう！

実施予定日 4月22日(土)

場 所 山梨県大月市笹子地内



# 流域の野鳥たち

Today Birds Tommorrow Men

イラスト 松本千鶴

①オンドリ→雄は美しい色彩斑紋、帆のような形で目立つオレンジ色の銀杏羽をもつ。地上や水面で主に植物性のエサを食べるが、木に止まっていることが多く、巢も地上ではなく樹洞につくる。

②ヒドリガモ→丸っこい体つきをした中形のカモ。冬鳥として渡来、湖沼などにたくさんいる。飛ぶと雄の雨おおい羽は白くてよく目立つ。

③キセキレイ→特に尾が長くスマート。上面灰色で腹はあざやかな黄色、主に川の上流に多く見られる。セキレイの仲間には尾を上下して歩くのが特徴。

④カワガラス→全身ようかん色。山地の溪流に留鳥としてすみ、水生昆虫などをエサとする。滝の裏側、岩のくぼみや橋の下に巣をつくる。

⑤ヤマセミ→山地の溪流にすみ、横枝や岩に止まって魚をねらい水中にダイビングして捕らえた魚を弱らせて食べる。白黒の斑模様、下面は白い。

⑥バン→体は黒く、脇と下尾に白い部分がある。水田や湿地に繁殖し、首を前後に振りながら泳いだりしてエサをとる。水際の草の茂った場所にかくれるようにして移動する。

⑦セグロセキレイ→頭、背、尾と全体に黒く、腹は白い。目の上に白い眉斑。主に川の中洲にすみ、昆虫を捕りエサとする。

⑧マガモ→雄は深緑色の頭に黄色いくちばしが目立つ。カルガモほどの大きさでアヒルの原種。水生植物や草の実、水生昆虫を食べる。

⑨ササゴイ→夏鳥として渡来、川岸、水田の浅水中にじっくり待って魚を捕る。川に近い大木に数つがい集まって巣をつくる

⑩コチドリ→チドリの類でもっとも小さい。目のふちが黄色く胸に黒い帯がある。川の中流から上の河原、中洲、荒れ地にすみ、河原の砂れき地などに巣をつくる。



⑪カワセミ→コバルト色の背とオレンジ色の腹をした美しい鳥。川などに飛び込んで小魚を捕らえてエサとする。赤土の崖や土手に巣穴をつくり子育てする。

⑫コアジサシ→全長28cm、夏鳥として渡来し、羽は細くスマートな姿をしている。海や川の砂地などのくぼみに巣をつくり産卵する。最近では干潟の埋め立てや相模川では堰の建設などで繁殖地が減少している。かえったヒナは色や斑紋が小石に似ている。

⑬アオサギ→日本のサギの中で一番大きく、ツルと混同される。松林などで繁殖する。背から羽は青味がかった灰色で、半夜行性である。

⑭ハクセキレイ→平地の水辺にすみ、市街地の建て物などで繁殖する。秋、冬には集団でねぐらをつくる。

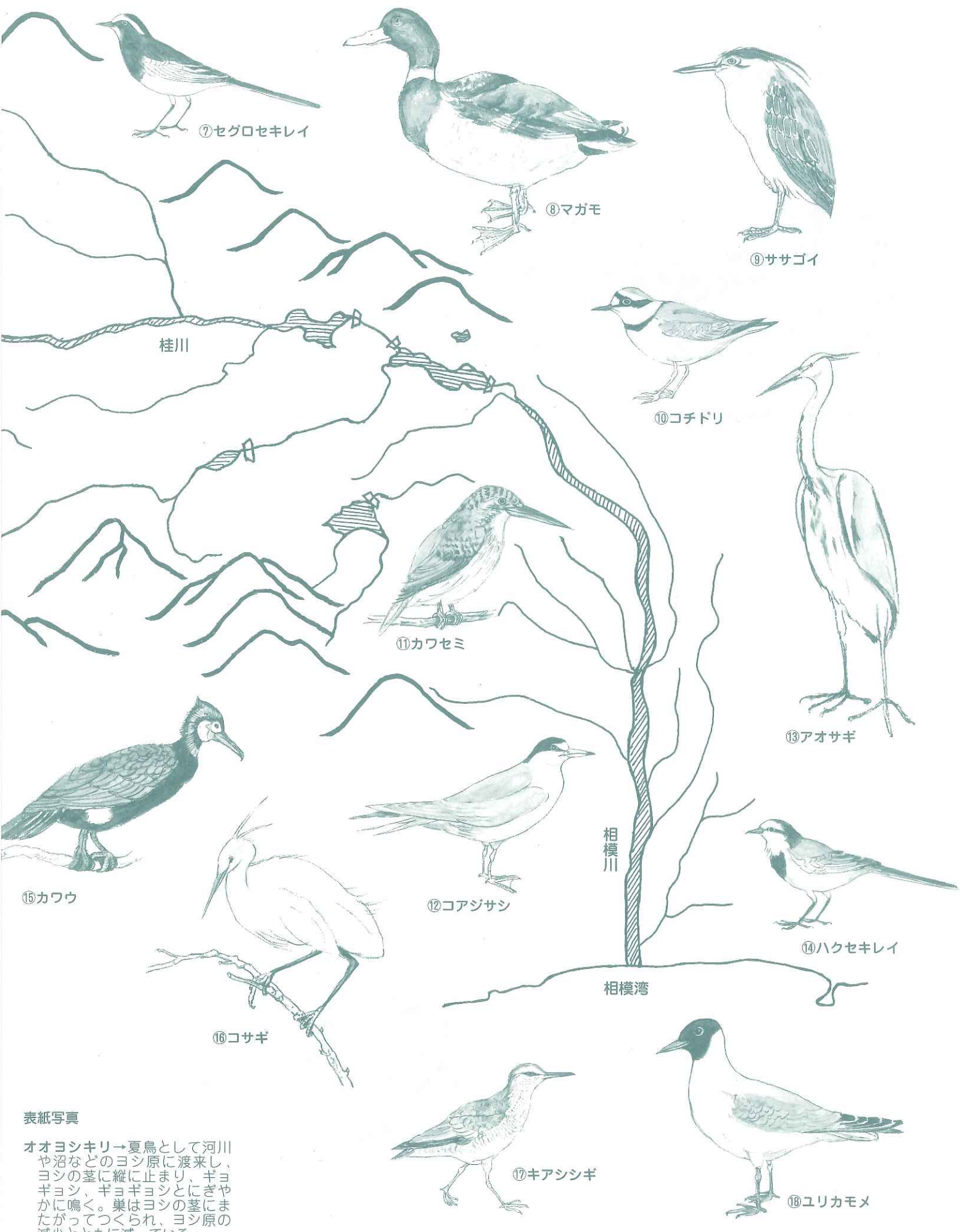
⑮カウウ→黒くて大きな水鳥。海岸近くの木の上に集団で繁殖し、池、沼、川などで魚をエサとする。

⑯コサギ→川や水田でエサの小魚や昆虫を足で追い出して捕る。くちばし、足は黒く、足の指だけ黄色。

⑰キアシシギ→上面は灰褐色。眉斑は白く、まっすぐな長いくちばしと黄色い足をもつ。川、干潟や湿地の水際でゴカイなどを捕る。

⑱ユリカモメ→夏羽では頭は黒褐色だが、冬羽の頭は白く目の脇に黒い斑がある。くちばしと足は赤色。川などで魚をとる。群れで生活し、夕暮れに編隊で海へ帰る。





⑦セグロセキレイ

⑧マガモ

⑨ササゴイ

桂川

⑩コチドリ

⑪カワセミ

⑬アオサギ

⑮カワウ

相模川

⑫コアジサシ

⑭ハクセキレイ

⑯コサギ

相模湾

⑰キアシシギ

⑱ユリカモメ

表紙写真

オオヨシキリ→夏鳥として河川や沼などのヨシ原に渡来し、ヨシの茎に縦に止まり、キョギョシ、キョギョシとにぎやかに鳴く。巣はヨシの茎にまたがってつくられ、ヨシ原の減少とともに減っている。



## < 上下流交流事業 >



### 相模湾観察会に参加して

岡 博 保

平成11年9月17日（金）に、桂川・相模川の豊かな水がそそぐ相模湾の現状を観察し、森・川・海のつながりの大切さを実感するとともに、上下流の住民等の交流と連携を図るために標記事業が開催されました。

集合場所は平塚港（新港）で、出席者は神奈川県99名、山梨県32名、合計131名でした。源流住民としての川に対する認識はあっても、その水が海へそそぎ、地球上の海水となる現状認識に乏しい私には、非常に興味をもって参加しました。県の担当者の案内で集合地に着き、6隻の漁船に分乗して海から陸を眺めました。地球の表面の70.8%を海水で占め、その量は13億4000万立方キロに及ぶそうです。この海は海産物の宝庫です。ごみは見当たりませんが、潮の関係でごみが見える時があるそうです。船からの感動を受け、予定のコースを終え、最後に平塚市教育会館において、博物館の浜口哲一学芸員から「川と海とのつながり」と題して講演がありました。

「川を見てゆくのに、一つの目でなく幾つもの目で見ること、水と石とかを見る目で一つ、文化とか歴史とかの目で見ると、が必要です。人の目があり、動物の目がある。」という言葉が印象的でした。

21世紀は「環境の世紀」といわれます。私たちの社会は、大量生産、大量消費、大量廃棄の社会から持続可能な循環型社会へと進める必要があります。私どもの住む源流地には鉱山もなく山紫水

明の地です。水は神聖であり命の源でありますので、川と海に目を向けつづけて川をきれいにしていくことを誓うものであります。

（市民 甲府市在住）

### 波しぶきにびっくり！

飯 塚 まり子

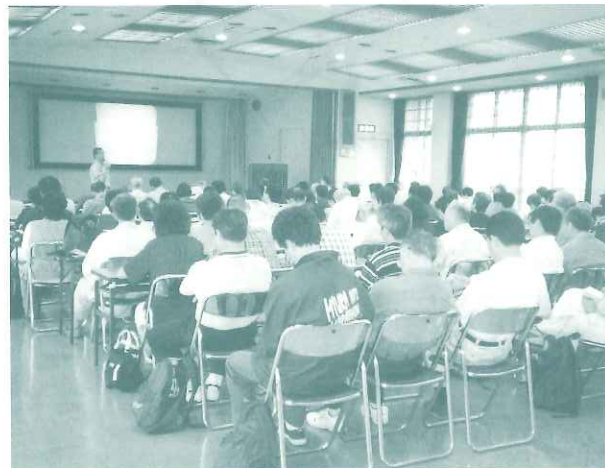
桂川・相模川がそそぐ相模湾の現状を観察する「相模湾観察会」が、9月17日に131名の参加者によって行われました。当日は曇りがちの天気でしたが、波の状態もよく、予定どおり平塚漁港から6隻の漁船に分かれて乗船して、江の島沖までの約1時間にわたる海の観察会を楽しみました。ほとんどの参加者が漁船は初体験のようで、波しぶきの激しさにびっくり。

それでも海上から眺める江の島や飛び跳ねた魚に感動したりと、皆それぞれに楽しんでいました。そんななかで、川や海に捨てられたゴミが浮遊している汐だまりがあることや、そのビニールをエサと間違えて海ガメが食べ、死ぬケースがあるとの説明を受けて、人々のモラルの低下について考えさせられました。

海上観察を終えて、相模川河川敷の花畑で咲き始めたコスモスを眺めながらの昼食・平塚市博物館見学のあと、博物館学芸員浜口氏の「川と海とのつながり」について講演を聞きましたが、熱心に聞き、そして質問をする様子に環境に対する関心の深さを改めて感じました。

この事業を実施するにあたり、漁協をはじめ、平塚市職員、平塚市民の方々には、事前準備、船上での説明など大変お世話になりました。

（事務局）





## 生きものたちの語る相模川 1

## ボラ vs. ヨシノボリ

浜 口 哲 一

川はいろいろな生きものすみかでもあります。そうした動植物の目からみると、相模川はどんな川なのでしょう。生きものたちの話に耳を傾けてください。

**ヨシノボリ**：ボラさん、こんにちは。久しぶりに親戚の顔が見られて嬉しく思っています。

**ボラ**：なんで、君みたいな小魚に親戚呼ばわりされるんだ。わしは、1mにもなる大きな魚。せいぜい20cmの君なんかの親戚なはずがないじゃないか。

**ヨシノボリ**：いやあ、失礼、失礼。私も、つい最近までボラさんと親戚なんて思ってなかったのですが、城山町あたりの人達は我々のことをスイツキボラと呼んでいたらしいんですよ。ほら、我々ヨシノボリはハゼの仲間で、その証拠にお腹に吸盤で吸い付いて登っていくことができます。スイツキボラとは言い得て妙と思いますね。

**ボラ**：ボラといたら、わしらボラとかセスジボラのことだろうが。なんで君たちがボラなんだ。

**ヨシノボリ**：まあまあ、そう怒らないで。ボラさんはもともとは海の魚ですから、あまり川には入ってきませんよね。そのためか、ボラさんが来ないような中流の人達は、ハゼだとかカジカの類をボラと呼んでいるんです。口の大きなウキゴリはクツボラ、カジカはカジカツボラと呼ばれていたようですよ。

**ボラ**：ふん、まあいいとしよう。わしらもひと昔前まで、よく厚木辺りまで上がったもんだが、最近では平塚の田村どまりだなあ。なにしろ、寒川堰

だの相模大堰ができて、上がろうと思っても障害物が多すぎるんだよ。

**ヨシノボリ**：まったく、川を上下するのも不便になりましたね。私も、卵からかえった後、いったん海まで下がって、また遡ってくるもんですから、道中難儀になりました。

**ボラ**：ほお、君らもアユ君たちと同じような行き来をしているとは知らなかった。どこかですれ違ったかもしれないが、小さくて気づかなかったかな。

**ヨシノボリ**：どうせ、ぼくは小さいですよ。それはともかく、ボラさんから見て、最近川の下流のようすはどうですか。

**ボラ**：そうだねえ。一時は川に入るとくさい臭いはするし、酸素は少ないし、川底にはヘドロがたまるはで、とてもひどい状態だったのだが、最近、少しはよくなってきたかね。といっても、小出川とか目久尻川とか支流は相変わらず汚いね。ヨシノボリ君は、ふだんはどのあたりで暮らしているんだね。

**ヨシノボリ**：我々は、川の中流から上流まで、あちこちに広く住んでいますよ。山の中の溪流にだって、人家の近くの小さな流れにだって。でも、水が汚れたり、水路が改修されたりして、住める場所が減って困っています。

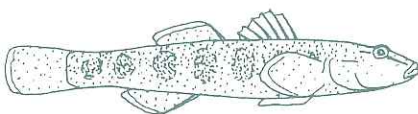
**ボラ**：まあ、わしら魚族にとっても住みやすい川であって欲しいというのが、お互いの願いというところだな。

## 出席者のプロフィール

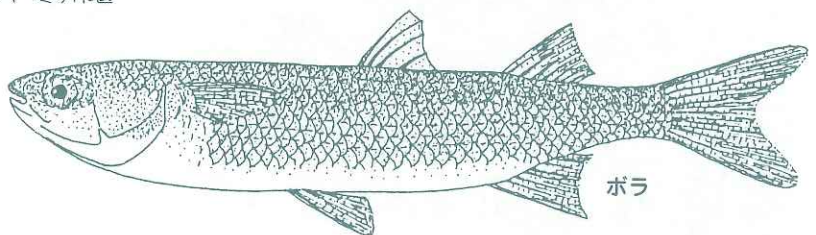
**ボラ**／ボラ科の海水魚で、しばしば川の下流域に入ってくる。相模川では時に大きな群れも見られ、水面をよく飛び跳ねている。近縁のセスジボラも記録がある。

**ヨシノボリ**／ハゼ科の両側回遊魚。近年の研究によってトウヨシノボリなど数種に分けられることが分かったが、相模川での種ごとの詳しい分布は明らかになっていない。

(平塚市博物館学芸員)



ヨシノボリ



ボラ



## 明見湖の明日

中川雄三

富士山の麓、富士吉田市に、蓮に覆われた小さな池があります。富士五湖と成因を同じくする明見湖（あすみこ）がそうです。

私が初めてここを訪れたのは、できるだけ長閑な所で暮らしたいと思っていたからで、迷わずに富士山麓を選びました。初めての私の職場は、桂川沿いに豊富な富士山の湧水をたたえる養鱒場でした。養鱒場には毎日、餌の魚を目当てに、たくさんのカワセミがやって来ました。カワセミの美しさに魅せられた私は、ある日彼らがどこから通って来るのか確かめてみたくなり、後を追うことにしました。こうしてカワセミたちに導かれてやって来たのが、明見湖だったという訳です。

蓮の間に長閑に釣り糸を垂れる釣り人たちの目の前を、まるで警戒する事なく縫うようにカワセミたちは飛び交い、水面には銀輪を輝かせてメダカやモツゴ、タナゴたちが群れ泳ぐ、私にとっては懐かしい夢のような光景だったのを今も忘れません。それからというもの私は夢中で、ほとんど毎日、明見湖に通いつめ、生き物たちを眺め、愛で、また時に泳ぎ、至福の時間

を過ごして来ました。しかし、池を訪れる釣り人や私にとっては夢のような場所でも、地元の人々にとってはこれまで開発の及ばなかっただけの遊休地にほかならないのです。とうとう1985年を過ぎるころから周辺の土地造成が始まり、初めに営巣地を失ったカワセミたちが、続いて湧水の枯渇などによりメダカやタナゴと、次々と池の生物が姿を消していったのです。

周辺の環境変化だけによって、水が濁み、多くの生き物たちの姿を消した明見湖には、当然訪れる人々もわずかになりました。小さな湖と言う閉鎖的な環境が、これ程周辺の変化に影響されるとは思ってもみないことでした。よそから移り住んで来た者の私としては、できることと言えば、引き続き池の変貌を写真で記録するぐらいのことです。そんな折、池の異変を憂える地元の有志の人々と出会い、ようやく遅ればせながら、明見湖の自然の再生運動をスタートさせることができたのが1992年の春でした。水辺の自然観察会から始まり、休耕田を利用した水辺の再生、「メダカの学校」運動へと。

その後も明見小中学校の皆、PTAの皆さん、地元の婦人組織カーカネットの皆さんのお世話になりつつ、ゆっくりと地域にも活動の主旨が浸透しつつあります。今年で二回目となった明見湖畔でのクリーンキャンペーンには自治会の皆さんにも参加して頂けました。明見湖の再生を願う私たち皆の活動が、周辺の桂川流域や下流部の相模川流域の人々の生活にも直接、間接的にも生かされることを期待してやみません。

(動物写真家)

◎詳しくは、中川雄三著「富士のすそ野のメダカの学校」大日本図書、写真集「カワセミの四季」平凡社を参照。





## “自然との共生”に反省を込めて

山英建設株式会社

私たちは山梨県都留市にあるチッポケな(?)建設会社です。都留市そのものが豊かな自然の中にある街ですが、その中でも私たちの会社は特にすばらしい環境の中にあります。本社の真裏には、桂川の支流である戸沢川が流れています。源流からわずか3kmの場所ですが川幅は50mほどあり、水量も豊富で大きな中洲があります。このため、近隣や近県からの釣りマニアが平日でも数人見られ、「こんな平日に、呑気な人たちだなあ」と羨ましく思いながら、日々の仕事に追われています。でも、毎年初夏にはカジカガエルの啼き声、夏休みには子供たちのハシャギ声、秋は周囲の紅葉、冬には川面に立ち昇る水蒸気など、あわただしい気持ちを“ホッ”とさせてくれる川でもあります。そんな戸沢川に、ほんのささやかでも恩返しのため、こんなことをしています。

- ・低騒音、低振動で排気ガス対策が万全な建設機械の導入
- ・アスファルトプラントの排煙処理設備（水蒸気だけの放出）
- ・建設廃棄物（コンクリート塊、アスファルト塊、残土など）のリサイクル設備
- ・工事現場の環境衛生対策の徹底

私たちは土建屋です。とかく自然破壊や環境汚染を代行する業種のように思われ、また悲しいけれど否定できません。ほんの少しばかりですが反省の意味を込めて、人類最大のテーマである“自然との共生”に微力でもお手伝いしたいと思っています。

〔総務部長 岩田悦夫〕

## アメニティを創造する

財団法人北里環境科学センター

北里環境科学センターは、北里大学衛生学部の環境衛生研究センターを母体とし、その業務をより充実、発展させるため、北里大学相模原キャンパス内に昭和52（1977）年4月に設立されました。

当センターの業務は、試験・検査事業、調査研究事業、教育指導・啓発事業などから構成されております。

試験・検査事業では、環境関連法に基づき大気、水質、土壌、廃棄物などに対して行う常時監視項目等の試験を実施し、規制基準の適合状況の監視にお手伝いをしております。また、生活に密着した食品や飲料水の定期的な検査を実施し、生活環境の安全確保を目的として、病原微生物等の各種微生物検査並びに理化学検査を行っております。

調査研究事業では、現状の複雑な環境問題の解決を図るための水質調査、土壌調査、大気調査などを実施し、集積された技術や知識をもとに環境改善に貢献する業務を展開しております。

最近では、飲料水中のクリプトスポリジウムや温泉水中のレジオネラ属菌などによる汚染、環境ホルモンや残留有機汚染物質及びウイルスなどに代表される新しい問題を今後の重点課題と考え取り組んでおります。また化学物質過敏症などの室内環境の問題に対する調査を実施するなど、幅広い調査を基に、健全な環境、健康的な生活を創造することを目標に業務を推進しております。

また啓発事業で、北里大学、(社)神奈川県薬剤師会との協賛により、一般県民を対象に身近な環境問題を題材にした「環境科学セミナー」を開催しております。毎回テーマを変えて開催しておりますので、環境にご関心のある方は是非ご参加ください。

〔技術部化学部門 長島政昭〕



## 花を植え水をきれいに

白井 眞

桂川・相模川の中流域にある神奈川県民の水がめ相模湖、津久井湖では度々アオコが発生し、平成6年には津久井湖の湖面一面がアオコの緑で覆われた。そこでエアレーション装置等を設置し、発生抑制に一定の効果を上げた。

アオコは湖水中の窒素やリンを栄養源として増殖する。それが津久井湖における植物を利用した水質浄化事業の出発点といえる。

平成11年度は津久井湖に流入する生活排水等の浄化施設を津久井町三井地区に設置した。

施設は、生活排水等を球状の砕石を敷き詰めた「水路浄化施設」で、有機性の汚れや浮遊性の物質を除去し、「水生植物浄化施設」で水中の窒素やリンを水耕植物の栄養分として除去する。

この事業は、県が施設を設置し、維持管理などのソフト面は地域の方々との連携で進めている。地域の推進母体は、「津久井地域の森と湖のよりよい環境を次世代に継承」を目的に、平成11年2月に発足した「つくいピオトープ推進委員会」である。

11月6日に委員会主催で水質浄化施設（面積約30m<sup>2</sup>）に約800本の鮮やかな黄色の花を付けたキク科植物ユリオプス・デージーの植栽を行った。現在は、その水質浄化効果を確認している。

水をきれいにするということと花の結びつきは、新鮮な驚きがあり、皆さんの関心と呼んで大勢の方の参加を得た。

平成12年度以降はさらに大きな水生植物浄化施設の整備が計画さ

れている。委員会は水質浄化施設のほかにいくつかの機能が付け加わっていくことを期待している。

まず、津久井の自然を考えながら様々な花や草が植えられた水質浄化施設、そこを目指して集まる小動物、こうした水と動植物との関わり合いの子どもや大人が学び、体験する環境学習の場である。

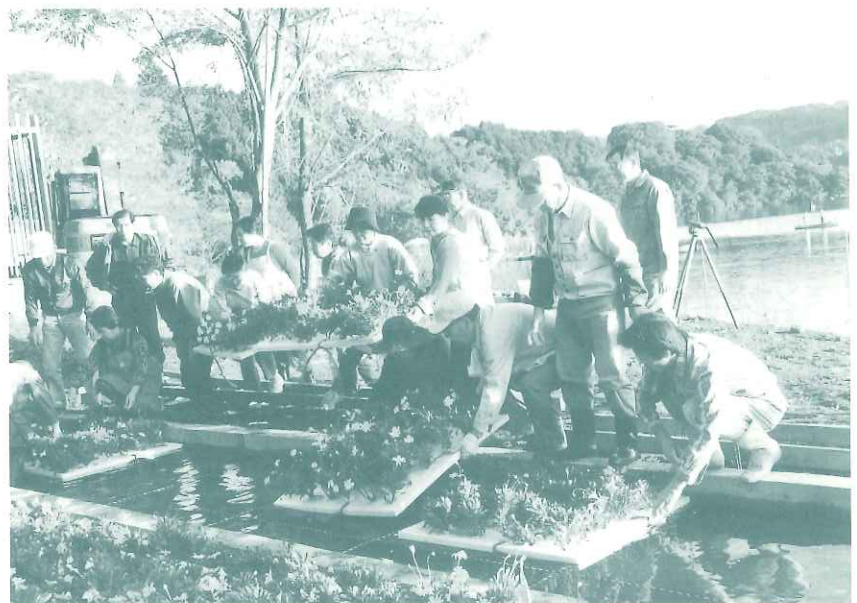
そして、四季折々に咲く緑濃い草が茂る水質浄化施設のある水辺は、人を和ませ、人が集う場所になる地域づくりの資源として活用したい。

そうした水辺を実現するために、みんなで考え、工夫していきたい。そのためには水質浄化施設は地域に開かれていることが必要である。

そこに水質浄化施設があるから来て学ぶ、きれいな水辺があるから遊ぶだけではなく、自分たちの手で水質浄化の実験をする、維持管理や水辺づくりをすることへ進めたらと考える。

最後に、この津久井で始まった水質浄化事業で咲いた草花の種が桂川・相模川流域の各地に飛んで、そこでまた開花できれば素晴らしいと思う。

（つくいピオトープ推進委員会事務局：  
神奈川県津久井地区行政センター環境部）





# コイのピテロジェニン調査終わる

=鳩川中流では異変個体も！=

昨年10月5日を皮切りに、桂川・相模川流域の4個所で、コイを捕獲してのピテロジェニン調査が行われました。ピテロジェニンは魚や昆虫の卵巣で卵黄が形成される際に現れる「雌に特有なタンパク質」の一つです。この物質が多摩川水系の雄のコイで観察され、川の水に含まれる内分泌攪乱化学物質（いわゆる環境ホルモン）の影響で、雄のコイに雌化がおこっているのでは、と話題になりました。相模川水系ではいったいどうなのだろうという心配の声も出て、市民部会の提案で行われたものです。実施日や調査地点等は次のとおりです。

10月5日 桂川（山梨県上野原町） 調査数=14匹 調査参加者=22名

8日 桂川（山梨県忍野村） 調査数=20匹 調査参加者=16名

9日 鳩川（相模原市原当麻） 調査数=17匹 調査参加者=30名

27日 相模川（厚木市酒井） 調査数=16匹 調査参加者=36名

（ほかに、8月中旬に山梨県が、山中湖で捕獲した15匹についても調査を実施しました。）

調査は、下記にあげた専門機関の皆さまの絶大なご協力を得て、順調に実施することができました。各調査地点のうち支流の鳩川では、左右の生殖腺が巨大に腫瘍化変形したものや、前・後端が精巣で、中央部が卵巣としか見えない個体など、一目で異常とわかるコイが3匹見つかりました。ホルモン異常との関連等は後日、各種分析結果を待たなければ何ともいえませんが、下流の取水場からの水道水を毎日使っている会員たちは、背筋が寒くなる思いをしたようです。ほかの調査地点はすべて、見た目には正常と思えるものばかりでした。

調査にお手伝いを願った両県各部署、地元自治体、両県市民の方々にも、あわせて厚くお礼を申し上げます。

●調査にご協力をいただいた方々（順不同、敬省略）

《山梨県側》山梨県環境科学研究所／山梨県水産技術センター／桂川および忍草漁業協同組合



《神奈川県側》横浜国立大学工学部浦野紘平教授と研究室の皆さん／横浜市立大学理学部井口泰泉教授／帝京科学大学理工学部平井俊朗助手／神奈川県薬剤師会公害衛生試験所／神奈川県環境科学センター

(A)



倉橋満知子

大原かおり

昨年、桂川・相模川流域協議会では「石鹼などを使い、洗剤の使用量を減らします。」という行動計画を採択しました。それを踏まえ、今年度は洗剤使用についてアンケートによる基礎調査を行い、具体的な行動へと出発します。

それに先立ち、11月23日に石鹼と合成洗剤の基礎知識と水環境への影響について、ミヨシ（株）と花王（株）の両メーカーから石鹼と合成洗剤の立場から説明を受けました。

石鹼は起源が古く5千年も使われてきた歴史が安全性を物語り、使用後は水と二酸化炭素に分解されます。また、石鹼を製造すると副産物として、ダイナマイトの原料となるグリセリンができる話には驚きました。

合成洗剤は戦時中に石油からつくられ、富栄養化の原因である窒素、リンによる水環境への影響や生物による分解性の悪さから研究や実験がつつけられてきたとのこと。

桂川・相模川の水は山梨県の一部地域や神奈川県内の60%の人たちの飲み水です。合成洗剤はもっとも身近に使われる化学物質であり、安全性では未知数なところがあります。さまざまな水生生物の種が減少したり、絶滅したりするのをなげいている訳にはいきません。生物や人間にとって、少しでも良いことを始めたいと思います。そこで、毎日大量に流される洗剤を意識し、生態系にやさしい石鹼を使い、流域協議会だからこその方法で進みたいと感じた学習会でした。

### 編集後記

- ◆関東大震災から77年。地殻エネルギーが高まる中で迎えたミレニアムである。直下型災害への備えにも一層気を配らねば——。(A)
- ◆藤野から上野原へ守屋先生のご案内で、桂川をウォッチング。先生のお話は最高で、笑いが絶えなかった。感謝。最近、市民部会も笑いがふえていいね。(K)
- ◆もうすぐ春。富士の雪どけ水が大河となるように、この会報も号を重ねるごとに大きく成長させたい。それにしても編集作業って「楽しいけど苦しい」、「苦しいけど楽しい」ものなんですね。(S)

こんにちは、北海道大学大学院農学研究所修士2年の大原と申します。この9月に流域協議会に入会しました。

生まれも育ちも札幌の私が、なぜはるばるこの流域協議会に入会したのかといいますと、大学での研究テーマが流域保全における市民・事業者・行政という三者の連携のあり方、であるためです。全国的にも先進的とされる桂川・相模川流域協議会を研究内容に盛り込むため自身も入会し、もっと勉強させていただこうと思い入会しました。

これまで専門部会や市民部会に参加させていただき、様々な課題をじっくりと議論し、少しでも具体的な行動に移していこうという雰囲気には圧倒されました。

北海道では三者が対等に議論し、流域の将来像をイメージしてそれに向け実行していく取り組みは萌芽段階にあります。北海道とは自然的、歴史的背景は異なりますが、研究を通して北海道における今後の流域保全の方向性を見いだせればと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。

### あなたも入会しませんか！

- ★市民会費：個人会員 一口1,000円（一口以上）  
なお、団体として加入される会員の方は、一口5,000円をお願いします。
- ★事業者会費：一口10,000円

#### <振込先>

郵便振替：振込口座 00220-5-10259  
名 義 桂川・相模川流域協議会

銀行振込：振込口座 さくら銀行横浜支店  
普通預金 6825559  
名 義 桂川・相模川流域協議会  
代表幹事 桑垣美和子

あじえんだ113

No.4 (2000.3.1発行)

発行 桂川・相模川流域協議会

編集 あじえんだ113編集委員会

事務局 山梨県環境局環境活動推進課 〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1 TEL(055)223-1503 FAX(055)223-1507  
神奈川環境農政部大気水質課 〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL(045)210-1111 内4128 FAX(045)210-8846

(この冊子は再生紙を使用しています)